



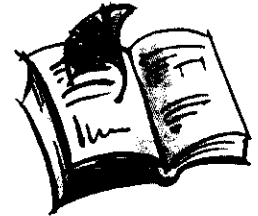
兵庫県本連盟

〒650-0035 神戸市中央区浪花町60 朝日新聞神戸総局内 TEL078-331-4144

<http://www14.plala.or.jp/AJAPS/>

今年後半も大いに写真活動を楽しみましょう！

2017年度前半には、兵庫県本部の活動にご協力いただきましてありがとうございました。楽しく充実した写真生活ができましたでしょうか？後半も撮影やコンテスト、作品展などにご協力いただき、充実した写真活動をしていただきますようお願いいたします。



<2017年度後半の県本部行事予定(2017年10月~2018年3月)>

行事名		実施日・締切	内容
撮影会	姫路地区撮影会 (コンテスト募集)	10月15日(日)	新見の土下座祭り(岡山県新見市) 募集人員40名 参加費6,500円
	阪神地区撮影会 (コンテスト募集)	11月23日(木)	鶏足寺の紅葉と湖北の夕景(滋賀県木之本市・長浜市) 募集人員40名 参加費7,000円
	パートIII撮影会 (コンテスト募集)	2018年3月11日(日)	近江八幡左義長(滋賀県近江八幡市) 募集人員120名 参加費6,500円
コンテスト	自家プリント ※	10月31日締切	・自由作品 単写真 カラー・モノクロ A4又は四つ切 ・応募資格:全日写連会員 ・応募料:1,000円(郵便小為替) ・応募先 朝日新聞神戸総局 ※ インクジェットプリンター出力作品に限る
	課題「電車のある風景」	2018年1月31日締切	・単写真 カラー・モノクロ A4又は四つ切 ・応募資格:全日写連会員 ・応募料:1,000円(郵便小為替) ・応募先 朝日新聞神戸総局
展覧会	県本部入賞作品展 県本部委員作品展	2018年2月20日(火)~ 25日(日)10:00~17:00 (初13:00~)(終~15:00)	県本部各種コンテスト入賞作品 約250点展示 兵庫県本部委員の作品 A3ノビ~全紙 約26点展示 会場:兵庫県民アートギャラリー

各行事についての詳細は、各支部長を通じてお知らせします。また、朝日新聞兵庫版にも掲載されます。



<作品展の紹介>

- ☆新世紀支部写真展 10月31日(火)~11月5日(日)
イーグレひめじ市民ギャラリー
- ☆フォトクラブみなづき支部展 12月14日(木)~19日(火)
神戸デュオギャラリー

<各県本部委員より>

日ごろは担当支部の方々を指導している県本部委員ですが、より多くの会員の方々に、他の委員のことも知ってもらうためのコーナーです。それぞれの委員の写真に対する思いが書かれています。(順不同です)

☆ 田中 賢



写真という創作行為を行う上で重要なことは、次のことについて熟知することではないでしょうか。

1. カメラ、レンズ、その他必要機材の機能や特徴を徹底的に知ること。
2. 有名作家が過去にどんな作品を発表しているかを知ること。
3. 何を撮るか、何故撮るか、どうして撮るかをリンクさせること。

1の項目については、自分のカメラの機能を知らないと表現の幅が広がらないし、広角や望遠レンズの特徴を知らないと的確な表現ができません。

2の項目は、過去の作品を知ったうえで、好きな作家の出版物などを集め、作品の中の被写体の在り方、光の方向や強さ、色彩等を記憶に留めることです。

3の項目は、テーマやモチーフを決め、(何を撮るか)、何故それに惹かれ、どんな思いを作品に込めるか(何故撮るか)、そのテーマやモチーフを通して自分の思いをどんな技法を用いて撮るか(どうして撮るか)ということです。何を撮るかは、自分の関心の高い事象やモノでなければ続きません。何故撮るかは、その人の知識、経験、感性、そして人生観に左右されるでしょう。どうして撮るかは、自分の所有する機材で対応するしかありません。1~3の項目が私の写真行為の確信です。

☆ 中村 峰雄



私は、撮影する動機を大きく分けて「K.S.O」と略しています。「K」はきれい。「S」はすごい。「O」は面白い。こういった自分の中での感動がシャッターを押す動機になっていると思われます。この回数が多ければ多いほど、良い作品(自分の目から見て)のできる確率が高くなり、写真を撮ることが楽しくなる、ひいては自分の人生がどんどん豊かになるという訳です。もちろん、写真の出来は、この動機の回数に比例する物ではありませんが、可能性はゼロではありません。

この動機を多くするための手段の一つは、感受性を豊かにすることです。人の写真を観たり、素晴らしい絵画を観たり、また撮影時には、被写体を注意深く観察することにより、感受性は高められると思います。

写真の題名を考えると、普段あまり引くことのない辞書を引いたりします。こうして感受性を高めることが、一瞬を逃さないシャッターチャンスをもにすることに繋がると思うのです。とにかく一枚でも多くの写真を撮り続けることが大事です。「継続は力なり」という言葉もよく耳にされると思いますが、クラブに入ってできるだけ多くの写真を撮り続けることが、自分の人生を充実させる得策かと思います。幸いにも私は、恵まれたクラブに入部し、現在もこのような調子で写真を撮り続けております。最後に、私をこういう気持ちで写真を撮り続けることに導いてくださったすべての方々に感謝いたします。

☆ 夏目 幹也



私はカメラを持って40年ほどになりますが、先生に就いてからは20年ほどです。今と違い、習い始めた当初はフィルムカメラだったので、大変お金のかかる贅沢な趣味でした。初めはシャッターを切る度にそろばんが頭を掠めました。先生からは1回の撮影で10本(36枚撮り)、月に20本は撮れと指導を受けましたが、毎月それを実行するのは至難の業でした。しかし、今はデジタルの時代になり、気楽にシャッターが切れる良い時代になったものです。写真は健康にも良いので、これからも健康維持とボケ防止のために写真を撮りたいと思っています。

☆ 本多 昭二



写真との出会いは、幼いころ父が記録していた戦時中の飛行機や車の写真、そして家族の写真を見て当時の様子を想像していました。その後高校在学中にミノルタSR T 101で風景・建物の写真を撮っていました。会社に入って運よく写真にかかわった仕事ができ、休みの日には近くの山へ自転車で写真を撮りに行っていました。その後、夜間の写真専門学校に2年間いきましたが、今思うと技術は身についたが、写真の内容については今一つだったと思います。

その会社も卒業と同時に退社。あとは山の写真を撮っていました。今から十数年前に全日本写真連盟に入り、グループで写真を撮りに行ってその作品を見せ合い、写真を批評し合ったりして、より人に伝わる写真作りに励んでいます。

私の撮影スタイルは、計画は立てるが現場に行けば臨機応変に撮っています。最後に、撮影時にはあまり考えすぎないようにして、沢山シャッターを切ることです。

☆ 牧野 慎三



1981年に県本部初心者教室を受講し、初めて一眼レフを買ってから36年経過しました。その教室の終了時、倉敷で県本部の撮影会があって参加し、そのコンテストに応募して初入選しました。そのことが今日まで写真を続けてこられた動機の一つとなりました。

当時から祭り、人物スナップを撮り、県本部の撮影会にはすべて参加しました。また、先生から雑誌などのコンテストへの応募を勧められ、無理かと思いましたが、意外と入選を繰り返すことになり、それが撮影回数を増やすきっかけとなりました。こうしたことから、継続することの大切さを身にしみて感じています。

写真を撮る時の行動、すなわち被写体を探す、構図を考える、シャッターを押すなどのことが脳科学の上で効果があるとよく言われています。それ以外に、私の経験からすると、県本部支部など写真クラブに入り、仲間と見知らぬところへ撮影に行くこと、さらにパソコンでレタッチして作品づくりをして、例会で他人の作品と見比べることなど、人間関係が知らず知らずのうちに老化防止になっているように思います。

また、被写体探しも楽しく、国内、海外と行先の歴史、文化を調べていくとカメラライフに幅ができ、頭の活性化になるのではないかと思います。

最近、全日写連に入会される方々の年齢が60~70歳の方が多く見受けられます。平均余命が毎年延びる昨今、写真を撮ることは世間の老化とは無縁の生き方です。お互いに頑張りましょう。

☆ 松下 敏和



写真を撮る始めた動機は、高校修学旅行にカメラ持参の裕福仲間を羨ましく思い、東芝入社後の給料ですぐにカメラを購入したのがきっかけです。その時会社の文化展で、今年亡くなられた田村委員の可愛い女の子のスナップ作品を見てから、自分もやってみたくて思いました。それから53年間、ひたすらスナップ写真を主体に作品作りを続けてきました。これまでにいろんな人と出会い、いろんなところへ出かけて、いろんなことを教えてもらって、それが人生に役立っているように思い、本当に写真を撮っていて良かったと思います。今後はいろんなことにチャレンジし、可能な限り、もっともっと写真を楽しんでみたいと考えています。何せ一度の人生に対して、写真表現は無敵ですから…。

☆ 満武 弘子



よく撮影先で出会う方々に「貴女のライフワークは何ですか？」と聞かれ、返答に困ることがあります。そんな時、写真を撮る始めた頃、恩師の「写真はスナップで始まり、スナップで終わる」という言葉を思い出し、「強いて言えばスナップです」と答えることにしています。

今日、肖像権問題等、色々撮影に制約がありますが、やっとスナップの難しさ、面白みが分かるような気がしています。今まで通り身の丈に合った自分流の撮影を続け、歩いて被写体探しにチャレンジしていこうと思っています。

☆ 谷村 周慈 会社卒業（定年）後、地域入楽（地域活動に入り楽しみ）、自慢話はほどほどに（本音を言う）ことを意識しています。



県本部委員を依頼され、現役の委員の皆さんの名前を拝見したときは、写真歴の凄さ、錚々たる人たちがいると思いました。あれから早や4年目、委員の皆さんは、自分の受賞した作品の自慢話などはなく、私からお聞きしても、ほんの少しお話していただけるだけで、さすが実力者です。人格もあり、気配りもあり、知名度のある、紳士淑女の人たちの仲間入りをした自分は、どのような役割をすればいいのか考えてみました。自分には体力に自信がありますので、本部行事では、展覧会や審査会の手伝い、また撮影会の世話などを中心に人一倍動くことを実行していくつもりです。撮影会では、参加していただいた会員の皆さんに、参加してよかった、次回も参加したい、と喜んでもらえるように努力していくつもりです。

健全な写真活動は生き方の活性化エネルギーになり、また、日常のストレスから解放されることにもなり、健康にも繋がります。

会員の皆様、撮影会でお待ちしています。

☆ 入谷 康一 写真は技術を習得することも大切ではあるが、自分の感性に合った被写体を発見することが最も重要である。



そして、それをどう撮影して、どのように表現するか？思考と感性のが合わさったものが自分の作品である。

私は、日本人がずっと「昔から持っている魂」を写したい、という思いで撮影に取り組んでいる。

撮影上達一口メモ（昔、何かから編集子がメモしていたものです）

1. まずはシャッターチャンス
2. 常に目測の訓練を（今はその必要がないですかね）
3. テクニックはさりげなく控えめに
4. 風景は慎重に、スナップは素早く
5. 露光は変えて写しておく
6. スナップは考えるより多くのシャッターを
7. 切る前にもう一度寄るスナップ撮影
8. 距離を合せたら、相手の動きに自分も合わせる
9. 瞳から目を離さない人物撮影
10. 周囲に気を配りながら素早いスナップ
11. モチーフを絞ろう
12. テーマを絞ろう
13. チャンスは逃すな、二度と会えない
14. 今写したのが最高傑作ではない
15. 狙った被写体には根気良く通う
16. 我より他は皆師、謙虚に
17. 言葉より作品で語れ
18. 自分は未熟と思って努力を

